

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	医療英語				
担 当 者	山崎麻由美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.3	4.4	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
「医療英語」では専門科目をご担当の3人の先生方に講義を担当していただきました。それぞれのご専門の立場から「研究」「留学」「グローバルな視点をもつ臨床検査技師」という皆さんの将来役に立つテーマで講義していただきました。いずれも興味深い講義でした。また皆さんにとって英語を学ぶモチベーションになったかと思います。研究や仕事の上での英語の必要性や英語学習のヒントを下さったので、今後の学習に役立ててください。 今年の皆さんは、課外学習にも時間をかけている人が多かったです。これはとても良いことです。授業に出てただ聞いてノートを取るだけでなく、事前に自分で調べ、あるいは復習をすることで、知識は定着していくからです。マナバの課題も毎回提出でしたが、皆さんは遅れることなく提出できていました。 臨床現場での患者さんとのやり取りの表現は、是非おぼえておいてほしいです。独特の表現や定型の表現があります。そのような表現を使うとスムーズに患者さんとやり取りすることができます。それは患者さんに安心していただくためにも大切なことだと思います。 「医療英語」で学んだことはこれから先に必要な英語のほんの一部にしか過ぎません。英語が好きな人、苦手な人、様々だと思いますが、今後は自分にあった英語の付き合い方を見つけてもらえればと思います。医療に携わる職業に英語は必要です。患者さんとのやり取りだけでなく、研究にも必要になってきます。自分なりの方法で学習を続けていってくれることを願っています。 本年度使用したテキストは今後も役に立つことと思います。時間を作ってふりかえってみてください。もう一度復習しまとめておいてください。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	3	
科 目 名	臨床化学検査学実習Ⅱ				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.1	4.2	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
感染対策して十分な換気を心掛けて実習を行いました。 A・B グループに分けて①実習に関連する講義②実習の具体的な操作③実際の実習について①と②は遠隔（YouTube）で実施しました。この授業でよいと思った点に「（予習動画があることによって）事前に予習するので、授業がスムーズに進んでよかった。」と遠隔とのハイブリッド実習は「自分のペースで」「じっくり」「何度も」「わかりやすい」の点で学生にとってよかったのではないのでしょうか。レポートについては、昨年度からどのポイントについて書けばよいかわかるような雛形を配付して報告してもらいました。この授業でよいと思った点に「臨床化学において押さえるべきポイントが実習・レポート・課題にまとまっていると感じた。」との意見があり、実習中にレポートが書ける、レポート量が多くなく、早く帰れる、書くべきことが明確なのでやる気にも繋がると好評でありました。実際に実習以外にかけている全体の学修時間は雛形導入前より減少していて、負担の集中する時期での皆さんの負担を若干ではありますが、減らすことができたように思います。また、最後で実施したグループワークでは、実際の対面でのやり取りや manaba を利用したプロジェクトがうまく活用でき、意見交換がうまくまとめられていたと思います。「他の実習科目では、最後の授業に発表があり何教科もかぶっていたので大変だったが、（本実習は）事前に課題が提示され、じっくり班で考える時間があつたため余裕があつて良かった。」と事前に課題提示するやり方もよかったと思います。 「〔実習科目〕器具・備品・試薬などの準備は適切だった」は全体の 94%が満足している評価の一方で、一部の学生からのメッセージで「試薬をもう少し分けて各班で使えるようにしてほしい」との意見がありました。グループ毎に試薬を準備することは理想的ですが、限られた試薬を要領よく、協力して使う訓練をすることも実習の目標の 1 つであります。今後、有効な実験時間配分ができることも実習の目的であることを提示して、それに至るアドバイスを実験前に指導していきたいと考えます。 「（学生自身）この授業に意欲的に参加した」全体の 82%、「（実習科目）レポートや課題などのチェックや指導は適切だった」全体の 96%、また「質問に対して丁寧に答えてくださった。」とのメッセージがあり、「（総合評価）この授業を受けて満足している」全体の 80%が満足してい					

る結果で、この実習の内容や進め方について全体的に良好な評価が得られていました。遠隔で内容や操作の説明を受け、皆さんが何を実習するのかを把握した上での対面での実習であったため、自分たちで実験の流れを考え実験を行えることができたと思います。

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	2	
科 目 名	臨床化学検査学Ⅰ				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.0	4.1	4.1	4.0	
学生へのメッセージ					
臨床化学検査学（Ⅰ・Ⅱ）は国試に出題されてきた内容および重要な事項を理解してもらうために、教科書にそって講義をつくる必要があると考えています。しかし、教科書を使った内容が中心になってしまうと、平坦で退屈な授業になってしまいがちです。そうならないように臨床化学検査学Ⅰでは動画の教材やスライドを使ったプレゼンを挟み込みながら授業をしました。また、重要な部分にラインマーカーを引き授業を行うことは必要だと考えていますが、マーカーを引くことに集中してしまうと授業の内容が耳に入らず、理解度の低下につながってしまう。その対策として、事前にマーカーを引いた教科書のPDFを授業単位毎にmanabaにアップし、自分の教科書にマーカーを引き、その箇所を予習するようにしました。この授業でよいと思った点に「マーカーを引くところが決められていたので大切なところがわかりやすかった。」とあり、ラインマーカーを引いた教科書のPDFを事前にアップして予習しておくことが授業の理解度をあげられる点で、小テストで重要な部分の再確認と復習ができる点で、このような進め方がよかったと思っています。「(授業方法) 板書、スライド、教材などの使い方は適切だった」との回答が全体の79%あり、これに続く臨床化学検査学ⅡもⅠと同様な進め方で、わかりやすい授業になるように努めます。 予習は大変だったと思いますが、教科書につけたマーカーはあなた方が3年生になってB6カードを使うようになると国試の過去問とマーカーの箇所が一致し、マーカーをした意義がわかってもらえるように思っています。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	1	
科 目 名	大学道場 mini ゼミ A				
担 当 者	林伸英				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.7	4.8	4.8	4.7	
学生へのメッセージ					
学科の垣根を越えて様々な学科から7名が集まり、将来目指している医療職でのワンステッ プアップを各自で考えていきました。 最初、漠然と考えていた自分の将来像はメンバーの話を聞いて変化していききましたか。進行 役をして人前で話をする事、傾聴や話す人の表情を読むこと、ご自分のコミュニケーション 力はどうでしたか。振り返りレポートを書き、文字にすることによってより思いが深まり、ご 自分の将来像がはっきりしてきましたか。 ～チャレンジする、その心を常にもっていることが大事～ 医療職として社会へ旅立ち、様々な職場環境を体験すると思います。そのシュッエーション の中で単調な業務の繰り返しに埋没されることなく、ご自分のステップアップを意識して、常 に向上心を持っておくことが大切です。他人と比べるのではなく過去の自分と比べて成長した 部分を認めること、人と違う部分をどのように活かすことができるか考えること、失敗をただ 悔やむのではなく、成功につなげるためにこれから何をすべきか考えることを意識すること。 メンバーのそれぞれがご自分のよい性格を見出し、過去と対比して今の自分自身と向き合い、 ご自分の苦手な部分を再認識する機会が与えられたならこのゼミの意義は遂げられました。将 来、もし立ち止まるようなことができてきたら、このゼミでのご自身で刻んだ言葉を思い出して 次のステップアップにつなげて頂けたらありがたいです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	医学検査サプリメント演習Ⅱ				
担 当 者	澤村 暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.6	4.2	4.1	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
この科目は国家試験対策として、3 年後期の医学検査サプリメント演習Ⅰの発展形として多くの模擬試験を実施しました。試験範囲は設定しているものの、根本は国試対策ですので復習の意味を込めて前回分の範囲からも一部出題していました。 後期からの国試対策の礎になればと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	臨床検査入門				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.5	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
「鉄は熱いうちに打て。」と言われるが、臨床検査のことをほとんど知らない早期に、病院を訪問して実際に臨床検査室を見ることで、方向性がある程度定まる。最終回の発表はどの班も素晴らしく、目的もって見学してきたことが伝わりました。入学当初の新鮮な気持ちを大事に、皆さんが成長されることを願っています。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	医学概論				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.4	4.4	4.3	4.5	
学生へのメッセージ					
人類の進化は「感染症の戦い」と表現としても過言ではありません。日本を含む先進国では感染症との戦いは終わったかのように錯覚していましたが、現実はそうでないことが COVID-19 実感しました。医学概論は医学の歴史に始まり、最新の医学情報まで多岐に渡った授業であったが、それらの中から関心もつ分野、例え関心を持てずとも概要を理解していれば、今後に繋がります。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	分子細胞生物学				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.5	4.6	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
文字通り細胞の中を個々の構造物に関わる分子レベルの話が多く、難解に感じがちです。授業の中でも取り上げた、抗ガン剤の作用メカニズムも分子細胞生物学を理解していると、薬剤によってはスンナリ理解できるようになります。それに臨床検査を行なう際にも。体内のメカニズムを知っていると検査の奥深さに気がつきます。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	検査機器総論				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.4	4.4	4.2	4.5	
学生へのメッセージ					
臨床検査現場で実際に使用する際には機器に付属する取扱説明書、職場の決まりごとに沿って操作を行います。勤務先ごとに決め事は変わりますが、基本は同じなのでこの授業でのことを思い出してみてください。きっと皆さんも使いこなせます。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	遺伝子工学				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	4.1	4.2	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
実際に手を動かし制限酵素処理やライゲーションを行えば、遺伝工学の基礎手技は難しくないことを実感できる。 この授業で学んだことは、遺伝子工学技術で基本中の基本であり、現場での操作の基本原理は同じあるので授業資料や教科書を見直して基本をもう一度理解しなおせば対応できる。例えば、臨床検査の現場では最先端の機器を用いて測定を行っているが、その測定原理は授業で学んだ事に基づき、吸光度の変化や抗原抗体反応であったりするのと同様です。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	先進医学検査学				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.1	4.2	4.1	4.0	4.3	
学生へのメッセージ					
坂本以外は全員が高名な外部講師でいらっしゃり、多くの新しいことを学んだと思います。臨床検査の知識と技術は活かせるので、皆さんも将来は可能性を広げましょう。これまで耳にもしたことが無い、多くの新しいことを学んだと思いますが、臨床検査では多くの事をさらに修得できるので奥は深いです。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	国際保健医療活動Ⅰ				
担 当 者	坂本秀生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.4	4.4	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
国が変われば、医療制度も変わります。いつでもどこの病院へ自由に受診できる日本では当たり前な国民皆保険、医療費も３割負担で済む。こんなに恵まれた国は世界でも珍しい。 このような素晴らしい医療を享受できているのは、医療従事者の献身的な働きがあるからこそである。それに甘えて日本人は些細なことで受診する傾向があり、本当に医療を必要とする人へのしわ寄せが及ぶこともある。 日本の良さを認識し、諸外国から学ぶこともあることを本授業で理解し、皆さんが実社会でも様々な考え方に対応出来ることを願っています。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	細胞検査学				
担 当 者	布引 治				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	4.1	4.2	3.9	4.2	
学生へのメッセージ					
細胞検査学は現場でしか得られない貴重な資料を中心に授業しました。細胞診は多くの細胞像を見ることによって力がつきます。授業後半は国試の過去問題を 30 年分解いてもらい、国試問題の肝を学んでいただきました。細胞の魅力に取り憑かれた方もいらっしゃるかもしれません。授業を通じて細胞検査士の仕事の面白さを感じていただけたら幸いです。 学生コメント ①先生が覚えやすいように、すみっこぐらしやちくわと言って下さるので覚えやすかったです。質問すると丁寧に教えてくださりました。 →実際に細胞像は身近にあるものに似ていたりします。意外な覚え方が勉強や仕事に役立ちます。工夫して勉強していきましょう。 ②スライドを変えるのが早いと思いました →こちらは私の反省点です。改善します。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	細胞検査学特論Ⅰ				
担 当 者	布引 治 佐野太亮 梶山和樹				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
5.0	4.7	4.6	4.7	4.9	
学生へのメッセージ					
前期は順調に学んでいただきました。後半、12月までこの調子で頑張りましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	病理検査学実習Ⅱ				
担 当 者	佐野 太亮				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	4.1	4.2	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
病理検査において臨床検査技師の役割は病理組織標本の作製です。標本作製過程をすべて機械化又は自動化することは困難なため、現在でも技術の優劣が大きな意味をもっています。綺麗な標本作製にはかなりの熟練をようするため、実習では基本的な操作の習得を目指し行ってきました。染色の過程で思った通りに染まらなかった時になぜ染まらなかったかを考えられる力を他の実習も含め、習得して行ってほしい。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	組織学実習				
担 当 者	佐野 太亮				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
組織学（Histology）は、主に光学顕微鏡などを用いて人体の微細な組織構造を観察し考察する学問です。解剖学で修得した臓器の肉眼的知識を基盤として、各臓器の正常組織構造を顕微鏡で観察し、各種臓器の機能の相違を理解する必要があります。組織学実習で得た知識は次につながる臨床病理検査学や細胞検査学はもとより臨床検査を学ぶ上で必須の基礎知識です。忘れていたところがあれば、もう一度復習を行い、しっかりと知識を定着させておきましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	情報基礎				
担 当 者	佐野 太亮				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.3	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
本演習は、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術に関する基礎（入門）的な学修と、大学生活や就職活動において必要となるコンピューターやインターネットスキルの1つであるWindows や Microsoft Office のアプリケーションの基本的な操作方法を学習した。この授業をきっかけに Microsoft Office をはじめ、様々なデジタル技術を応用し、自身の学習に活かしてください。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	基礎生物				
担 当 者	松元英理子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.5	4.5	4.2	4.5	
学生へのメッセージ					
お疲れ様でした。 「生物学」を理解していただけたでしょうか。そして「生物学」を少しは好きになっていたけたでしょうか。 「基礎生物」で学んだことがこれからの専門基礎科目の土台になります。すでに後期の専門科目の難しさを感じている人は多いと思いますが、「基礎生物」の毎回の manaba テストで培った継続的な学修習慣をこれからも続けられれば何とかなります。 いただいたコメントは、良かった点としては… ・manaba の小テストと解答・解説、スライド、テスト前の練習問題など→ありがとうございます。毎回課題を提出することで、きっと学修習慣がついていると思います。 ・授業で後ろの方まで歩いて回ってくれるので質問しやすい。→近くに寄っていくと嫌がられると思っていましたが…ホッとしました。 改善点としては… ・講義とスライドのスピードが速い。→乗ってくると早口になるので、気を付けます。 ・後からプリントを見返してもわかりにくい。→簡潔な表現にするために、箇条書きや体言止めを多用しているからでしょうか…。見直してみます。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	3	
科 目 名	遺伝子・染色体検査学実習				
担 当 者	松元英理子・溝越祐志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.2	4.3	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
【松元】 実習お疲れさまでした。 「全部機械がやってくれると思っていたのに、意外に手間と時間がかかる。」と感じたのではないのでしょうか。一つ一つステップを踏んで進めてゆくことが、解析原理の理解につながると考えています。 さて授業評価の結果ですが、設問別の評価で高かったものは、「レポート等のチェック」「試薬等の準備」「技術指導」などでした。皆さんのレポートや技術に対する個別の指導が評価されたようです。 自分の手を動かして出したデータを目の前に、これまで講義で学んできた知識やさらに自分で調べた知識を使いこなして論理的に考え、解決策を見出していく…これが社会で必要とされる「力」です。皆さんは実習を通して十分にトレーニングを積んだと思います。 色々なコメントをいただきました。ありがとうございます。 改善点としては各々1名ずつですが、スライドの早さ・授業の長さのほかに、「実習中に追加で注意を言うのをやめてほしい」という意見がありました。→はい、実験中の皆さんの手元を見て回って気になったことをついマイクで言いたくなるのは私（松元）です。あと、「テストが恐ろしい」というコメントも…→そうでもなかったでしょ？ 良かった点としては、複数の方が「自分の毛根の遺伝子解析」をあげておられました。得られた結果を今後の飲酒生活（？）に活かしてください。他には「採点されたレポートで振り返りができる」や「なぜこのような結果が出たのか教員と考えられた（教員とのディスカッションのこと？）ので曖昧な点がなく理解できた」という主旨のコメントもありました。ありがとうございます。これは教師としてやりがいがあります。 【溝越】 皆さんが実習で何気なく行った PCR はキャリーマリス博士が開発し、1993 年にノーベル化学賞をとった大発明です（ちなみに 2019 年の 8 月に亡くなられてしまいました）。この技術の特にすごいところはサーマルサイクラーさえあれば、たとえ一大学の一実習でも簡単に実施で					

きるという利便性だと思います。簡単で単純な作業でしたが、実はこの工程に画期的なアイデアが濃縮されているということ、また、実習で画期的な技術のひとつに触れていたということを知っていて欲しいと思います。コロナ禍を経た皆様だからこそ PCR の重要性については肌で感じられたのではないのでしょうか。

いただいたコメントについては松元先生が全て拾ってくださっているので私から返すことは何一つありません。自己検体を調べて面白かったという感想を持っている人はぜひ、他の遺伝子解析にも挑戦してもらいたいと思います。遺伝子工学実験（遺伝子改変実験）なども面白いですよ。半年間、実習お疲れ様でした。

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	医療コミュニケーション				
担 当 者	今西麻樹子、新谷路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	4.4	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
臨床検査技師は「緑の下の力持ちで、ひとりコツコツと仕事する」とのイメージが少なからずありますが、どのような職種でもコミュニケーションは必要です。本来の臨床検査技師の業務は、『検査前の説明→検査の実施→報告書の作成→結果の説明相談』までであり、検査の実施だけではなく検査の全過程に責任があります。 ¥「採血や採尿」「筋電図、肺機能」の検査（前）説明に比べて、「検査結果説明」は難しかったと感じたのではないのでしょうか。患者さんに向けた検査説明には検査に関する注意事項、検査値と病態、検査結果の解釈、検査の意義などの知識とともにコミュニケーションスキルも必要となります。大学で学んだ知識と技術を基礎に、就業して得る知識・技術・経験を積み重ね、検査を行うだけではなく「検査説明・相談もできる臨床検査技師」になってください。 【今西・新谷】					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	2	
科 目 名	生理機能検査学Ⅱ				
担 当 者	今西麻樹子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.3	4.4	4.2	4.4	
学生へのメッセージ					
授業評価に回答いただきありがとうございました。 この授業でよいと思った点で、「レジュメにイラスト等が多くて分かりやすかった。」とのコメントがありました。文字だけではわかりにくい内容も、イラスト等を見ることで理解してもらえればとの思いが伝わっていたようで励みになります。 この授業で改善すべき点と思った点で、「何色がどの意味なのかを先に説明して欲しかった。」 「プリントに線を引くことだけに集中してしまい、先生の話聞くことが出来ないため、予め線を引いたプリントだとより授業の理解が深まると思いました。」とのコメントがありました。下線の色については、関連している内容について色合わせをしている以外、特に意味はなく、授業中にも言ったつもりではありますが、1 回目授業で意図を伝えるようにします。また、線を引くことに關しては、授業を聞き流すのではなく、重要・必要ポイントを授業内で掴んでもらえればと考えての授業形態です。確かに下線を引く分量が多い項目もありますので、次年度に向けて改善していきます。 脳波に関しては、いろいろな波形が発生する機序が十分わかっていないところもありますが、決して難しいものではないと思います（脳波を読むのは難しいけど）。また、筋電図は神経系に關する基礎的事項を基に検査法が築かれているため、まずは基礎知識を十分に整理して、神経系疾患に關する基礎知識を学習しつつ、これらの疾患において各種検査を行うとどのような異常が出現するかを理解してください。 なお、令和6年度の臨地実習から、臨地実習12 単位のうち3 単位以上は生理学的検査に關する実習を行うことになっています。生理機能検査学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、生理機能検査を行う上で必要となる科目で、これらの基となっているのが生理学と解剖学です。現在、生理機能検査学を苦手と感じている人は、生理学と解剖学から復習しましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	M220001-基礎化学				
担 当 者	佐守秀友				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.3	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
ご受講頂いたみなさん本当にありがとうございました！基礎化学は高校で化学を履修していなかった人、化学がやや苦手な人のフォローアップをするために開講された自由科目です。講義では教科書内容と関連した分野で化学の面白さが伝わるような話題を盛り込んだりしつつ、なるべく興味を持ってもらえるようにしたつもりです。講義中の質問などを積極的にしてくださった方も多く、大学生活の一步を皆さんと一緒に歩めたことを嬉しく思っています。 また課題では各章の化学的知識を実際に使用する時に用いる計算演習を記述式で行うなどして多くの問題の解答を繰り返してもらいました、他の教科の課題もある中、かなりの方がしっかりと課題を解いてきてくださっていました。課題を本当に良くがんばってくれたと思います。本当にお疲れ様でした！ 課題の採点を通して、多くの方が化学ができない、わからないよりも、「計算式が立てられない」、「計算結果を正しく導くことができない」問題を抱えていると感じました。筆算の能力は大切ですが、どれだけ理論がわかっている、計算が完了できなければ正しい検査・実験は行えませんので電卓での正しい計算式の処理の仕方もしっかり学んでいってください。また、その逆にどれだけ計算に自信があっても、化学の知識を数学と結びつけて式に落とし込めなければ、それでも正しい検査・実験は行えません。 基礎化学の講義では、とても基礎的な数値の扱い方からお伝えし、教科書の細かいところまでは触れることができませんでした。時間のあるときに教科書の細かい欄外などを読み進めてみるとよいと思います。 基礎化学の講義がみなさんの一助となっていれば幸いです。 もし、化学の基本的なことでわからないことがあれば、いつでも質問のメールなどを送ってきてください！（佐守）					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	一般検査学				
担 当 者	新谷路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.2	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。 ワークシート（書き込みプリント）について、“復習に活用できて良かった”、という意見と“模範解答が欲しかった”という意見がありました。ワークシートは、授業時に配布したプリントおよび教科書の内容から構成していますので、あえて全解答を提示しませんでした。少しでもみなさんの要望にそえるようにと考え、五択問題と分かりにくいと思われる箇所について解答を提示しました。 後期からは一般検査学実習が始まり、教科書で学んだことを実際に体験していただきます。さらに理解が深まり、一般検査の重要性や面白さが伝わることを願っています。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	病理学				
担 当 者	新谷路子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.2	4.3	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。 “ワークシートを活用できた。知識の定着に役立った。”という意見と、“模範解答を出してほしかった。”という意見がありました。ワークシートについては、manaba 小テストの活用も含めて、自己学修・知識の定着に役立つように今後も改良していきます。 使用したテキスト『シンプル病理学』は、カラー写真も多く読みやすくまとめられていますので、どうぞ今後も読み続けて下さい。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学Ⅰ				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.0	4.3	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
授業への様々なコメントありがとうございました。試行錯誤しながらの授業でしたが、課題が「授業の復習になる」「自分でキーワードを調べる姿勢が身についてよかった」と、学ぶ姿勢につながったなら、とても嬉しく思います。「スライドが分かりやすかった」のは、今まで講義や講演等で使い、聴き手の反応や評価で改善することができた内容に関するものだと思います。引き続き改善に努めます。プロジェクターの不具合は、都度、教務課にお伝えしました。電源を入れ直すと回復することがあると教えてもらいました。「少し早口で聞き取れなかったところがあった」のはごめんなさい。気をつけます。「学生からの改善要望に応えようとした」点、これは引き続き心がけたいと思います。後期の公衆衛生学Ⅱでも、気がついた点を教えてもらい、一緒に考えながら、より丁寧でわかりやすい授業に努めます。公衆衛生の楽しさ、大切さをもっともっと知ってもらい、自分で窓をさらに広げ、日々の暮らしでの実践やこれからの学びの助けになるよう頑張ります。引き続きよろしくお願いします。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	保健医療福祉総論				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	3.8	4.0	4.0	3.9	
学生へのメッセージ					
授業への様々なコメントありがとうございました。教官1年生としては、まずは指定の教科書（2冊）と前年度のシラバスに沿ってやってみようと思ったのですが、教科書に重複や抜けが多く、結果的には「公衆衛生学がみえる」も加えた3冊ものテキストを行き来することになりました。教科書の切り替えが早くて、ご苦勞をおかけした点、反省しています。今年度は、1年生に公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱを教えることができ、それを踏まえて来年度の本授業のシラバスと教科書を見直したいと思います。現2年生の皆様には、今後、公衆衛生学の国試対策の中で、しっかりサポートしていきたいと思います。質問等あれば、いつでも遠慮なくどうぞ。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	3	
科 目 名	臨床病態学Ⅰ（病因・病態）				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
2.8	3.8	3.8	3.6	3.9	
学生へのメッセージ					
授業へのコメントありがとうございました。とにかく難しくて膨大な教科書の内容を、たった8回の授業で、どのようにお伝えするか、かみ砕くだけで手一杯で、それをわかりやすい資料に落とし込むところまで力及ばなかった点、反省しきりです。教科書で線を引いているPDFの提供については、お応えできずにごめんなさい。マーカーを引いた「そこだけ」では、必要な知識にまだ足りないと思うので、現時点での提供は差し控えさせていただきたいと思います。前期4年の臨床病態学Ⅲや後期3年の臨床病態学Ⅱで、他の先生方の授業も聞きながら、随時、資料を整えて提供していきます。学生さん達からの意見や提案は、私自身も本当に助かりました。後期も遠慮なく、意見や提案をもらいながら、よりよい授業、よりよい学びになるよう努めていきます。これからもよろしくお願いします。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	2	
科 目 名	生理機能検査学Ⅰ（循環器系）				
担 当 者	浦 みどり				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.4	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。また、15回の授業を熱心に聞いて頂き、私ももう少し皆さんと一緒に心電図や他の検査の勉強を続けたかったです。後期から実習が始まるので、座学の知識を存分に生かし、また授業だけでは理解が難しかった点は、クラスの皆さんと共に実習で確認するなど、より一層理解が深まるよう頑張っていきましょう。 授業評価は、全ての項目で学科平均を上回りましたが、「授業以外に学修した時間」が短かったようです。皆さんの取り組みを増やすために宿題を課すよりも、自ら興味を持って学ぶ姿勢を大事にしていきたいのですが、良い案がありましたら教えてください。 以下、授業評価で頂いたコメントについて回答致します。 ・「小テストで知識の確認が出来た」と複数の方々から頂きました。限られた時間の中で非常に多くの内容を学修する科目ですが、先へ進むばかりでなく、皆さんの知識の確認や定着に役立つ小テストは続けていきたいと思えます。前向きなコメント、ありがとうございました。 ・「内容は難しいが説明が分かりやすい」とのコメントを頂きました。これからも出来るだけ丁寧な解説をしたいと思えます。実際に、臨床ではどの検査も判読や判定は難しいケースが多々ありますが、基礎が身につけていれば、必ず難しい応用も分かるようになります。 ・「プリントが少し見にくいところがあった」（2件） 学内の複合機のコピーは画質が良くないのですが、影響がある部分についてご指摘を頂けたら、必要に応じて manaba にアップしたり、波形などは大きく印刷し直したりするなど、可能な限り対応したいと思いますので、ぜひ早めにお知らせください。 ・その他 小テストの際にも「楽しい」など、明るいコメントを頂き、ありがとうございました。心電図を通して生理検査の面白さを今後もお伝えしたいと思いますし、一緒に考え学んでいきましょう。定期試験は全体的に多くの方々頑張っていたと思えます。もし「もう少しやっておけば良かった」「実はあまり理解できていなかった」と思う方々は、今のうちに授業や小テストの復習、教科書を熟読するなど、少し戻って確認をしてみてください。また、皆さんにとってより良い授業や実習になるよう、随時改善に努めたいと思えますので、お互いに良い案を出し合っ					

改善に繋がっていきたいと思いますので、今後もリアルタイムのご提案をお願いします。後期も楽しく頑張りましょう！

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	生理機能検査学実習Ⅱ				
担 当 者	浦 みどり				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
授業評価にご協力頂きありがとうございました。この科目はすべての項目で学科平均を上回っていました。その主な要因に Student assistant (SA) としてゼミ生に入って頂いたことだと思います。複数の方々が「4年生のサポートが良かった」と、充実した実習に繋がる要因となったようでした。今後も身近な先輩に様々な事を聞ける環境を作りたいと思います。 頂いたコメントについて、「全員が1回は検査者をできるようにして欲しい」との要望がありました。現状では時間などの問題から全員ができない項目もありますが、実習最終回の講義の時間などを使って実施できる項目もあると思いますので、皆さんにとって有意義な実習になるよう時間を有効に使っていきましょう。出来ていない項目がある場合などは、遠慮なく実習中にご相談ください。皆さんの時間なので、より良い実習が出来るよう、その場でご意見を頂き、皆で考えて実施していきましょう。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	医療安全				
担 当 者	伊藤洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
2.9	3.9	3.9	3.7	3.9	
学生へのメッセージ					
本授業は、主として看護や臨床検査に関する医療安全について具体的・実践的な講義となるよう、臨床の現場でご活躍中の先生方にも担当に加わっていただいております。チーム医療の構成員として医療安全を考えるにあたっては、「看護師」・「臨床検査技師」の職能に関する相互理解が重要となります。よって、看護師および臨床検査技師に共通して求められる知識や技術についての講義を中心としつつ、ときに看護師もしくは臨床検査技師の専門分野にあたる内容が解説されました。 このことについて、看護学科の複数の受講生より「看護学科あるいは医療検査学科に偏った授業」、「臨床検査に関する内容は難解」という趣旨の「②改善すべき」というご意見をいただきました。具体的にどのような解説内容のことを指摘されているのかは不明ですが、必修科目の定期試験として受験される受講生の心情を鑑み、 1. 「看護師および臨床検査技師に共通して求められる知識や技術（この解説は、あなたの学科の専門分野でもある）」 2. 「(あなたの学科の専門分野ではないが)「看護師」・「臨床検査技師」の職能に関する相互理解のために知っておきたい内容」 3. (1 と特に 2 について)「定期試験では何がどのレベルまで問われるか（出題範囲）」 以上の点について、各回の授業時にもう少し明確に提示する工夫の必要性を感じました。このコメントを担当教員と共有したいと思います。 一方、受講生と教員の所属学科が異なる場合（看護学科の受講生が医療検査学科教員の講義、医療検査学科の受講生が岡光先生（看護師）の講義）でも、「わかりやすい」、「面白い」という趣旨の「①よいと思った」ご意見を複数いただきました。本授業の教育的な狙いとその取り組みが一定程度浸透しているのではないかと考えます。このようなご意見をさらに多くいただけるよう、次年度以降も授業改善に取り組んでいきたいと思っています。 (伊藤 洋志)					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	検査入門実習				
担 当 者	伊藤 洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.2	4.6	4.4	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
【比色・ピペット 分野 (伊藤・溝越)】 皆さんからの評価は学科平均を超え、授業は比較的肯定的に捉えられていたと感じました。検査入門実習は大学1年生前期では唯一の実習で、さまざまな機器・器具を扱う検査技術の第一歩を感じられたことでしょう。予習動画に基づき、実験を比較的スムーズに進めた学生が多く、予習の効果が見られましたが一部には予習不足で結果を得られないままになった学生もいました。 実験は段取りが大切です。予めどんな原理に基づいてどのような実験を行うのか、何が必要でどのように進めるのかを把握しておくことは、実験上手になるための第一歩、さらに手際の良い優れた臨床検査技師になるための第一歩でもあります。manabaのコースに載せた資料は今後も閲覧できます。必要に応じて利用してください。(伊藤・溝越) 【化学基礎 分野 (澁谷・佐守)】 化学基礎では予習時に教科書以外に一般公開されている動画などを観て頂き、多くの方が予習を生かした実習・レポートへの取り組まれてたものと思います。一方、予習が不十分なためか知識に基づかず隣の人がやっているからということで同じ準備や操作をして失敗をしている方もおられました。予習の大切さを感じて頂けたのではないのでしょうか。また、上級者の操作を真似ることは非常に有意義なのですが、正しい知識が無いまま同クラスの初級者の人の作業を真似すると重大なミスにつながるという貴重な体験をされた方も多いか思います。 当分野では学生生活・社会人生活でも必要となる「時間内に課題を達成するため適宜情報を収集する力(自身に不足した情報を補うためにコミュニケーションを取る力)」・「正しい情報ソースに基づき行動する力」・「自ら実験エリアの情報を分析し必要な物品を調達する力」などの基礎的な実験者マインドを育てる目的で、やや不親切とも思われる紙面情報や物品配置などがあったかと思います。そのような環境で揉まれ実習を完了した皆さんはきっと自ら実験・試験を独自遂行していく自信が少しは得られているものと思います。ぜひこれからも皆さんには知識に裏打ちされた行動・操作を意識して先の3年間の実習に励んで頂ければと思います。 最後に、一部の方の提出レポート内容に『剽窃』に当たるものがありました。今一度、どう					

いった書き方をすると『剽窃』に当たるのか、正しくない参考文献・web の引用とはどういうものを再確認して次年度からのレポート作成に生かしてください。(佐守)

【顕微鏡 分野 (佐野・梶山)】

病理診断学や病理検査は、手術や死亡解剖で摘出した組織の肉眼観察、組織切片(凍結または固定切片)、剥離細胞診、体液中の細胞や結晶物を顕微鏡で観察し診断する検査です。そのため顕微鏡の構造や使用方法を完全に理解し日常業務を行うことが不可欠です。学生としても顕微鏡を使用する病理学検査実習をはじめ血液検査・微生物検査・一般検査での尿沈渣などの形態学の分野では、顕微鏡の基本構造を理解したうえで実習を行っていただきたい。(佐野・梶山)

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	労働衛生学Ⅱ				
担 当 者	堀江 修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.1	4.1	4.3	4.1	
学生へのメッセージ					
授業評価をいただきありがとうございました。Ⅳ学習成果は高評価でしたが、その他はⅤ総合評価を含めて平均を下回ってしまいました。総合評価はこの授業を受けて満足しているという項目なので、ここだけは上げておきたいと思ったところです。自由記載欄のなかに「感染症の歴史は楽しかった」という評価があり、私自身も「感染症の歴史」は本当に楽しく授業できたところです。授業する側と授業を受ける側が「楽しい」というのは授業の最も素晴らしい形であり、評価も重要ですが、今後この形になるような授業をめざしたいと考えています。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	1	
科 目 名	生理学 I				
担 当 者	堀江修				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	3.5	3.5	3.7	3.8	
学生へのメッセージ					
授業評価をいただきありがとうございます。授業の内容はほぼシラバス通り進行し、授業資料もそろっていたのですが私自身が落ち着いて授業ができませんでした。そして、力を入れて教えたいところが今回あいまいになり時間のかけ方がばらばらになりました。授業において声が聞き取りにくいという評価が多数ありますので、マイクなどを多用して改善に取り組みます。カラフルな授業スライドと時間的に無理のない課題は継続します。そして何よりうれしかったのは、学生さん自身が勉強した、調べた、考えたという時間が多かったことです。基礎専門科目で積極的に勉強に取り組んでくれたのは、今年度の生理学 I 授業の大きな成果の一つです。総合評価は例年に比べてよくなかったのは、私自身が落ち着いて授業に取り組めず、授業内容にも反映してしまったからだと反省しています。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	血液検査学Ⅰ				
担 当 者	堀江修・澤村暢・池本敏行				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.0	4.1	4.1	4.1	
学生へのメッセージ					
授業評価をいただきありがとうございます。学科平均とほぼ同じような評価をいただきました。1時間目の授業だからというのは理由にはありませんが、授業資料が始業までに2～3分遅れたりすることがあるので、それを改善します。課題は適宜示していますが、一部解答を示していないので解答を示すようにします。授業方法のうち、声が聞こえにくいという指摘は毎回あるので、できるだけ修正して次の授業に臨みます。今回の評価では、皆さんに血液検査学に対してある程度興味を持ってもらえたという結果ですので、大いに興味を持ってもらえる魅力ある授業を、担当教員一同で協力して行いたいと思っています。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	血液検査学実習 I				
担 当 者	堀江修・澤村暢				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.3	4.0	3.9	4.0	4.1	
学生へのメッセージ					
授業評価をいただきありがとうございました。Ⅰ. 学生自身が突出して高く、興味をもって取り組んでくれたことがわかります。他の評価は例年に比べて少しずつよくなかったのですが、私自身が落ち着いて実習に取り組めず、実習内容にも反映してしまったからだと反省しています。結局マイナス点の方が多かったのですが、澤村先生にはいろいろな点でカバーしていただき、プラス点はすべて澤村先生のおかげです。次回は私のところでプラス点を上げて以前のよう に授業評価をすべての項目で学科平均点以上にしたいと思います。後期はがんばります。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科		学 年	2	
科 目 名	免疫学				
担 当 者	伊藤 洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.2	4.2	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
本授業は、臨床検査技師国家試験で出題される 10 科目のひとつ「臨床免疫学（免疫学的検査、輸血・移植検査）」の専門基礎科目に位置づけられます。よって、臨床検査技師を目指す皆さんにとって、国試に合格するためには相応の学修到達度が求められます。また、第 1 回授業でも述べましたが、医学を構成するさまざまな学問の中でも、免疫学は特に進歩が著しい分野のひとつです。具体的には、さまざまな病気の成り立ちに免疫系の関与が明らかにされ、また免疫の仕組みに着目した新たな治療法が開発されています。それに伴って、臨床検査においても新しい検査項目や、免疫学的手法を活用したより優れた検査法が導入されています。皆さんが臨床検査技師として社会に出られた後も、この流れは加速していくことでしょう。それはすなわち、皆さんが医療従事者として発展してゆく医学に対応し、その役割を果たしていくためには、常に新たな医療技術の修得が求められることを意味します。「免疫学」は、そのために必要な医療従事者としての基礎知識を修得する授業でもあります。 免疫学は、多くの種類の細胞や因子などの複雑な連携を学ぶため、理系のどの学部・学科の学生にとっても難解に感じるところです。まずは、免疫系の全体像を把握することが重要です。その上で、ある細部は全体像のどこに位置するかを理解し、その細部について国試での問われ方に即して復習することが効果的です。 アンケートでは「スライド枚数が多い」ことや、おそらくそれに関連して「内容の理解が大変」という趣旨のご意見をいただきました。初学者がまず要点は何かを知るためには、あえて詳しい説明を排した簡素なスライドの提示もひとつの方法ではあります。しかし、最終的に国試問題を正答できる到達度を考えた場合、要点とその周辺を「理解する」ことが必要です。本授業の資料は、そのような学修に必要な情報を提示することを意識して作成しています。4 年生で国試に向けて総復習する際にも、活用していただければと思います。 (伊藤 洋志)					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	3		
科 目 名	免疫検査学実習				
担 当 者	伊藤 洋志				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	3.8	3.9	3.9	4.0	
学生へのメッセージ					
本授業は、臨床検査技師国家試験で出題される 10 科目のひとつ「臨床免疫学（免疫学的検査、輸血・移植検査）」の専門科目である「免疫検査学」の実習科目にあたります。よって、臨床検査技師を目指す皆さんにとって、国試に合格するためには相応の学修到達度が求められます。国試専門科目の学内実習の意義としては、主に 1. 専門科目（講義・座学）で学んだ臨床検査を実際に行うための技術を修得する。 2. 専門科目（講義・座学）ではわかり難い（イメージし難い）臨床検査法の原理や特性などを実習という体験を通して理解する（理解の深化）。 があげられます。臨床検査室における免疫学的検査は自動化が進んでいるため、「免疫検査学実習」では2の意義が大きいところです。ただし、実際の反応像を観察して適切に検査結果を判定するという点で、1の要素もありました。 いずれにせよ、皆さんは2年次までに学んだ「免疫学」・「免疫検査学」の知識に基づき、臨床検査技師として医療現場で役割を果たす技能の修得が求められます。定期試験はその到達度を測るものでしたが、成績が振るわなかった方は今一度、復習に励んでいただきたいと思います。 さて、アンケートでは「スライドの情報量が多くて、重要事項がわからない」という趣旨のご意見をいただきました。実は、2年生の「免疫学」でも類似する趣旨のご意見をいただきました。「免疫検査学実習」で提供した資料の多くは「免疫検査学」の資料の転用ですが、資料の作成方針は「免疫学」とほぼ同様です。よって、いただいたご意見に対する返答として、「免疫学」でのコメントを参考までにこの欄に示します。 （以下、「免疫学」授業評価アンケートに対するコメント） 本授業は、臨床検査技師国家試験で出題される 10 科目のひとつ「臨床免疫学（免疫学的検査、輸血・移植検査）」の専門基礎科目に位置づけられます。よって、臨床検査技師を目指す皆さんにとって、国試に合格するためには相応の学修到達度が求められます。また、第1回授業でも述べましたが、医学を構成するさまざまな学問の中でも、免疫学は特に進歩が著しい分野のひとつです。具体的には、さまざまな病気の成り立ちに免疫系の関与が明らかにされ、また					

免疫の仕組みに着目した新たな治療法が開発されています。それに伴って、臨床検査においても新しい検査項目や、免疫学的手法を活用したより優れた検査法が導入されています。皆さんが臨床検査技師として社会に出られた後も、この流れは加速していくことでしょう。それはすなわち、皆さんが医療従事者として発展してゆく医学に対応し、その役割を果たしていくためには、常に新たな医療技術の修得が求められることを意味します。「免疫学」は、そのために必要な医療従事者としての基礎知識を修得する授業でもあります。

免疫学は、多くの種類の細胞や因子などの複雑な連携を学ぶため、理系のどの学部・学科の学生にとっても難解に感じるところです。まずは、免疫系の全体像を把握することが重要です。その上で、ある細部は全体像のどこに位置するかを理解し、その細部について国試での問われ方に即して復習することが効果的です。

アンケートでは「スライド枚数が多い」ことや、おそらくそれに関連して「内容の理解が大変」という趣旨のご意見をいただきました。初学者がまず要点は何かを知るためには、あえて詳しい説明を排した簡素なスライドの提示もひとつの方法ではあります。しかし、最終的に国試問題を正答できる到達度を考えた場合、要点とその周辺を「理解する」ことが必要です。本授業の資料は、そのような学修に必要な情報を提示することを意識して作成しています。4年生で国試に向けて総復習する際にも、活用していただければと思います。

(以上、「免疫学」授業評価アンケートに対するコメント)

(伊藤 洋志)

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	2		
科 目 名	対人援助技術演習				
担 当 者	江崎ひろみ				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.6	4.7	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
毎授業ごとのミニツツペーパーへのコメントや本授業評価のおかげで、授業の改善点がわかりました。ありがとうございました。 本科目は M2 前期前半で、生体データを取る演習の経験の少ない時期での授業でした。 授業内でミニ体験する中で、対象（患者とその家族）の心理理解を深め、普段気づきにくい危険予測力を醸成するような授業づくりを心掛けました。また、感染対策を取りながら、2～4人程度の少人数で学生相互に意見交換ができる機会を持つこと、授業の振り返りコメントの共有することで他者の意見から考察を深められた方が多くいらっしゃいました。臨床現場で必要となる移乗・移送技術演習については、教員2名体制で、学生の安全を確保しながら基本技術の知識習得を目指しました。検査室など狭小空間での車いす操作は実践的な技術と危険予測の視点が養われたと思います。今後の臨地実習に活かしてください。(江崎)					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	情報科学概論				
担 当 者	関 雅幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.3	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
学生による授業評価調査は「授業の到達目標が授業でわかりやすく示された。」、「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった。」という事柄に対して課題が残るという結果になりました。 授業中にも話したかと思いますが、コンピュータをいろんなことに使っていると、その中で情報科学関連の知識が増えていきますので、とにかく触っていきましょう。できればプログラミングにも挑戦してみてください。きっと楽しいですよ。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	医療工学				
担 当 者	関 雅幸				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.3	4.4	4.1	4.4	
学生へのメッセージ					
学生による授業評価調査は「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった。」、「授業の進行速度は適切だった。」という事柄に対して課題が残るという結果になりました。 1 年前期に物理に関連した科目を学ぶことになり、慣れていない分野に対して苦勞された方もいらっしゃるかもしれませんが、心電図等では電圧の変動を見ていくことになりますので、"生体信号をとらえるために必要"と認識していただき、苦手だった方はしっかり復習をしておいてください。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	物理学				
担 当 者	高久圭二				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.0	4.0	3.9	4.1	
学生へのメッセージ					
医療検査学科の学生は化学や生物は得意ですが、物理アレルギーの人が多くいますので、百聞は一見にしかずで、できるだけ小道具を使って説明しました。授業スピードが速いという学生もいますが、8回で終わらせるためには、このスピードとなります。また、最終授業後の感想では、物理に対する苦手意識がなくなったという学生もあり、良かったと思っています。 ①この授業でよいと思った点 なし ②この授業で改善すべきだと思った点 ・少し話すスピードが早かったと思いました。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	1		
科 目 名	化学Ⅱ（有機化学）				
担 当 者	森川敏生				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
3.8	4.4	4.5	4.2	4.4	
学生へのメッセージ					
半年間お疲れ様でした。 この授業で学ぶ有機化学の知識は、大学受験科目としての化学を履修している学生と、そうでない学生とでは、当初の習熟度に大きな違いがあることから、なかにはついていくのにたいへんであった方もおられたと思います。 すべての受講学生にとっての有機化学の知識向上のために、バランスをとりながら授業をすすめるように心掛けました。すなわち、できるだけ基礎の基礎から解説し、演習問題や例題を通じて繰り返し説明をするように心掛けるとともに、一方で、当初から多くの知識を習得している学生にとっては、もの足りない内容にならないように「よもやまばなし」などを交えて授業進行しました。授業評価では概ね好評をいただいたことからひと安心しました。					

学生へのメッセージ

学 科	医療検査学科	学 年	4		
科 目 名	労働安全衛生法規				
担 当 者	松村歌子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.1	4.1	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
法律科目は一般に、堅苦しいイメージがありますが、どうしてそのような法律ができたのか、背景や事例などを勉強するととても面白いですし、学んだ知識は実生活で役に立ちますので、是非今後も法律を学ぶ習慣をつけて下さい。					